

大腸がん検診の注意

【 便の採取方法 】

・検査容器の袋（緑色）の中に説明書が入っていますので、説明書をよくお読みのうえ、2日分の便を採ってください。採便済みの容器は再度、緑色の袋に入れて提出してください。

※最初に採便した日を「1日目」としています。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
例1	採便	採便・提出			
例2	採便	採便	提出のみ		
例3	採便		採便・提出		
例4	採便		採便	提出のみ	
例5	採便			採便・提出	
例6	採便			採便	提出のみ
例7	採便				採便・提出

・採便したものは、5日間有効です。

・提出までに土曜日・日曜日を挟む場合は特にご注意ください。

◎下記の提出期間に、記載の場所へ提出してください。

提出期間

<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>月</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							日	月	火	水	木	金	土	6	月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			<p>日時： <input type="text"/> の日程で検体を回収します。 提出の際は、<u>午前11時まで</u>にお持ちください。</p> <p><u>提出先：健康づくり支援課窓口</u></p> <p>※ 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、提出の際はマスクの着用をお願いいたします。</p>	
日	月	火	水	木	金	土																																												
6	月		1	2	3	4																																												
5	6	7	8	9	10	11																																												
12	13	14	15	16	17	18																																												
19	20	21	22	23	24	25																																												
26	27	28	29	30																																														

期間外の提出はお受けできないため、採便・提出日にご注意ください。

6月中に提出できない場合は、提出日を健康づくり支援課にお問い合わせください。

◎注意事項

- ・採取した検体は、冷暗所に保存してください。
- ・下痢、生理中は採便しないでください。
- ・問診票を必ず記入し、採便容器に氏名、日付、時間を記入して提出してください。
- ・検査をお申し込みいただいた方は、検査ができなかった場合、**検査料（500円）の払い戻しはいたしません。**必ず期間内に提出してください。
- ・**問診票と検体は、お渡しした封筒に入れ、健康づくり支援課窓口までお持ちください。**
- ・提出日から約40日で結果が郵送されます。

がん検診のメリット（早期発見・早期治療）

検診は、自覚症状のない時点で行われることから、がんが進行していない状態で発見することができます。がんが不治の病といわれたのは昔のことで、現在は早期発見・早期治療でがんはその多くが治ります。一方、症状を感じて受診した場合には、がんが進行している可能性もあり、臓器によっては直すことができない場合が多くなります。

がん検診では、がんになる前の病変が発見されることもあります。子宮頸部異型上皮、大腸腺腫（ポリープ）等の前がん病変は、それを治療することでがんになることを防ぐことができます。

がん検診のデメリット

がんが見つかりにくい場所や形をしている場合には発見できないことがあり、検査の精度は100%ではありません。ただし、初回の検診でがんと判断できなかった場合でも、毎年【肺がん・大腸がん・胃がん（バリウム）・子宮頸がん・乳がん（マンモグラフィと超音波検査を隔年）】検診を続けることにより、がんを発見できる確率は高まり、がんによる死亡を回避する可能性も高くなります。このため、がん検診は単発の受診ではなく、適切な間隔で受け続けることが必要です。また、症状がある場合は医療機関の受診が必要です。

検査の結果・・・精密検査の必要があると判断された場合には

精密検査は必ず受ける必要があります。

がん検診で精密検査が必要と判断されたのは、「がんの疑いを含め異常（病気）があるかもしれない」と判断されたということです。その原因について、より詳しい検査を行い、本当にあるかどうかを調べる必要があります。症状がない、健康だからといった理由で精密検査を受けない場合には、がん検診で見つかるはずのがんを放置してしまうこととなります。

精密検査の結果は、市町村、医療機関、検査機関が保管します。

精密検査の主な方法

検査方法は何種類かありますが、全大腸内視鏡検査が基本です。そのほかに、状況に応じて、S状結腸内視鏡と注腸X線検査が行われる場合があります。

- ・全大腸内視鏡検査：内視鏡を挿入し、直腸から盲腸までの大腸全部位を撮影し、がんやポリープなどの病変がないかどうかを確認します。
- ・注腸X線検査：肛門から、バリウムと空気を注入して、大腸のX線写真を撮影します。大腸のどこに病変があるのか、体の向きを変えながらさまざまな方向から撮影します。